

「おくうん」で体育の授業をする子どもたち
＝富士大和西小で



「ね、く、う、ん？」東京出身の私も、ずつと気になっていた。「体育館だろ」と。この疑問を子どもたちにぶつけてみた。「普通だよ」「履くのは屋運シユーズ！」…。「じやあ、何て呼ぶの？」逆に切りかえされた。

ただ、市西部に行くと、「体育館」と呼ぶ人も。一部では「アリーナ」と呼ぶ学校もあった。分布を調べよう。全小中学校に片っ端から確認してみた。地図に落とすと、「屋



一宮市内の公立中学校に勤務しています。市内の小中学校では、体育館を「屋内運動場」と呼び、普段は「屋運」(やううん)と略します。なぜこんな呼び方が定着しているのでしょうか。

＝一宮市木曽川町、中学校教諭桑山数馬さん(30)

学校体育館なぜ「屋運」？

この使われていた文言はなんと「屋内運動場」だった。

そして、ある人物にたどり着く。中田敏夫さん(66)。

ばかり。体育館やアリーナと呼ぶのはどれも近年、施設を建て替えた学校だった。ところが旧尾西市、木曽川町は「体育館」派。唯

一、屋運だった木曽川東小

も昔は体育館だったそう。

合併後、旧一宮市から校長が赴任し、変わったそう

調べると、「学校は体育館を備える」。

やはり違つ。

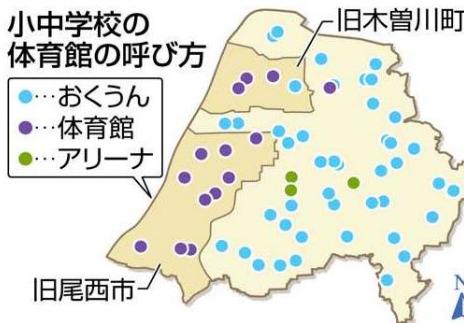
こう一瞬、思つたが、通知

日は2002年。割と最近だ。別の法令も認めてみた。「公立学校設施災害復旧費国庫負担法」(一九五三年制定)の施行令と「義務教育諸学校施設費国庫負担法」(五年制定)。こ

中田さんも背中を押す。中田さんは「体育館に変わっているのが普通。守り続けたのは本当に珍しいこと。文化として長く大切にしてほしい」と語る。中田さんは「おくうん」は地域が愛した「一宮弁」だった。

(一宮局・植木創太)

規則通り今は方言



市長	中野 正康氏
人口	380,276人 (県内4位/昨年9月1日現在)
当初予算	1132億2千万円 (県内5位/普通会計)
財政力指数	0.84(県内42位)

※平成30年度県まとめなど。県内全54市町村

「おくうん」で体育の授業をする子どもたち
＝富士大和西小で

「おくうん」は地域が愛した「一宮弁」だった。

(c) .中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています